

第9回 鳥獣被害対策便り ニホンザルの被害防止対策②

今月の鳥獣被害対策便りは先月に引き続き「ニホンザルの被害防止対策」についてです。先月号ではニホンザルの生態についてお話をしましたが、今回は村民の皆さま自身で実践することができる対策方法についてご紹介します。ニホンザルの学習能力は非常に高いため、安心して侵入できる場所だと認識されてしまうと立て続けて被害が発生しますが、危険な場所だと学習させることができれば対策は成功です。農作物被害をこれ以上拡大させないため、さらには人慣れが進むことによる人的被害が発生しないよう、対策方法を確認して実践に移していきましょう。

◇問い合わせ先 農林振興課 ☎ 96-1256

対策① 人による追い払い

ニホンザルを見かけたら、自身の安全を確認した上で、ニホンザルが見えなくなるまで大きな声や大きな物音を立て集落から追い払ってください。複数人での対応やロケット花火の活用がさらに効果的です。また、集落でロケット花火の音を聴いたら、可能な限り追い払いに参加するといった集落での申合せも効果的な追い払いにつながります。出沒頭数が少ない・悪さをしていない状況でも必ず追い払いをすることで、ニホンザルに「近づきにくい場所」だと認識させましょう。ロケット花火は各区長さん経由で入手が可能ですので、必要の際は各区長さんにお声がけください。

※乾燥時にロケット花火が森林へ飛んでいくと火災に繋がる可能性があるため、右図のように持ち手を土に刺して着火することで、思わぬ方向に飛んでいくことを防ぐことができます。



対策② 電気柵による学習

電気柵は畑に侵入しようとするニホンザルを感電させることで「この畑は危険だ」と学習させる対策です。しかし、ニホンジカやイノシシ用の電気柵では高さが足りず飛び越えられたり、柵線の間隔が広すぎてすり抜けられる可能性があります。そのため、ニホンザルの対策にはワイヤーメッシュと電気柵を組み合わせた複合柵が有効とされており、今年度の9月にこの複合柵の設置相談会を役場において開催しました。来年度も開催する予定ですので、被害にお困りの方は是非参加をご検討ください。

また、畑に複合電気柵を設置したとしても周囲に生えている樹木の枝先から飛び込んでくる可能性もあるため、併せて周辺環境を確認することも重要となります。



【9月開催電気柵設置相談会】

●まだ被害に遭っていない方も・・・

サル群れの行動域はある程度決まっているため、「自分の地域ではこれまで一度も見かけたことがない」という方もいるかもしれません。しかし、群れの拡大や分裂に伴って行動域を広げたり、突発的な移動をする可能性も十分考えられます。住居や畑の周囲にニホンザルを誘引してしまう農作物の廃棄物や柿などの放置果樹がないか、ニホンザルが身を隠してしまうくらい伸びきった草やぶがないかなど、「転ばぬ先の杖」として一度、身の回りの確認をしてみましょう。